

TEPCO REPORT

8 TEPCO レポート
特別号
2003

原子力を巡る最近の動きと 夏の電力需給状況



東京電力

当社自らの不祥事により、多くの原子力発電所が停止し、皆さまに電力の供給不足のご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、心からお詫び申し上げます。

また、自らの原因による節電のお願いにもかかわらず、昨年暮れより、多くのお客さまにご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

停止中の原子力発電所については、点検と補修を実施し、地元のご理解のうえで、運転再開に向け取り組んでおり、現在、4基を運転再開するに至っております。

現在も引き続き、供給力の確保に努めておりますが、猛暑となった場合でも追加供給力(約260万kW)を最大限に利用するとともに、需給調整契約による需要の抑制(約140万kW)等によって、何とかバランスする見通しとなりました。

しかし、予想を超える高気温の発生や発電設備のトラブル等に対応する予備的な供給力の確保(300万kW程度)が必要なため、地元のご理解を得て、更に3～4基程度の原子力プラントの運転再開を目指しております。今回のレポートでは、今夏の最大電力と供給力対策、また、原子力の最近の動向などについて特集します。

CONTENTS

■ 一連の原子力問題に関する主要な動き	3
■ 夏の電力需給状況	5
今夏の最大電力	5
供給力対策	6
原子力発電所の現況	8
今後の見通し	9
■ 節電のお願い	10
「でんき予報」の開始について	10
具体的な節電のポイント	11
参考：首都圏で使われる電気の特徴	12
■ 再発防止のための4つの約束	14

一連の原子力問題に関する主要な動き

▼ 平成14年 8月29日	GE社より指摘を受けた「当社原子力発電所における点検・補修作業に係わる不適切な取り扱い」について、9月中旬に調査結果を報告する旨公表。
▼ 平成14年 9月17日	「当社原子力発電所の点検・補修作業に係るGE社指摘事項に関する調査報告書」をとりまとめ、原子力安全・保安院へ提出。
▼ 平成14年 9月20日	「原子炉再循環系配管におけるひび割れの疑いのある事案」について、原子力安全・保安院へ報告。
▼ 平成14年10月 4日	福島第一原子力発電所1号機の「原子炉格納容器漏洩率検査に係る問題」について、社外弁護士による調査団を編成。
▼ 平成14年10月25日	福島第一原子力発電所1号機の「原子炉格納容器漏洩率検査に係る問題」について、中間報告をとりまとめ、経済産業大臣へ提出。
▼ 平成14年11月15日	「原子力施設にかかる自主点検作業の適切性確保に関する総点検中間報告書（過去5年間）をとりまとめ、原子力安全・保安院へ提出。 また、9月20日付経済産業大臣からの指示文書「原子力発電所再循環配管におけるひび割れの疑いに係る報告徴収について」に対する報告書も提出。
▼ 平成14年12月11日	福島第一原子力発電所1号機の「原子炉格納容器漏洩率検査に係る問題」について、最終報告をとりまとめ、経済産業大臣へ提出。
▼ 平成14年12月12日	原子炉格納容器漏洩率検査のためのプラント停止計画を提出。
▼ 平成15年 2月 6日	第1回「福島県原子力発電所所在町情報会議」を開催。
▼ 平成15年 2月28日	昨年11月15日の中間報告に続き、「原子力施設にかかる自主点検作業の適切性確保に関する総点検最終報告書」（過去14年間）をとりまとめ、原子力安全・保安院へ提出。
▼ 平成15年 3月 7日	「当社原子力発電所における自主点検作業にかかる不適切な取り扱い等に対する再発防止対策の実施状況」について報告書を取りまとめ、経済産業大臣へ提出。
▼ 平成15年 3月11日	「当社原子力発電所の点検状況並びに補修の基本的考え方」についてとりまとめ、公表。

平成15年 3月11日～

「当社原子力発電所の点検状況並びに補修の基本的考え方」等について、立地地域の皆さまを対象に、説明会を開始。

< 主な説明会の実績 >

福島県での説明

3月11日 福島県議会エネルギー政策議員協議会
双葉町議会全員協議会
3月12日 楡葉町議会全員協議会
双葉町行政長官
3月14日 富岡町議会全員協議会
大熊町議会全員協議会
大熊町行政長官
4月18日 双葉地方エネルギー政策推進協議会
5月 7日 浪江町議会全員協議会
5月15日 双葉地方エネルギー政策推進協議会
5月21日 浪江町行政長官
6月 1日 双葉地方エネルギー政策議員協議会
6月 3日 福島県議会エネルギー政策議員協議会
6月 9日 福島県議会全員協議会
6月20日 双葉地方エネルギー政策議員協議会
6月27日 福島県議会エネルギー政策議員協議会
6月30日 双葉町全員協議会
大熊町全員協議会
7月 1日 富岡町全員協議会

ご説明回数

- ・町村議会へのご説明 10回
 [大熊町 / 2回 双葉町 / 2回 富岡町 / 2回
 楡葉町 / 2回 川内村 / 1回 浪江町 / 1回]
- ・8ヶ町村首長・議長へのご説明... 5回
- ・県議会へのご説明..... 4回
- ・行政区単位での住民説明会 ... 81回

平成15年3月11日以降の実施回数
立地4町への全戸訪問は約12,900世帯へ2回実施。

新潟県での説明

3月14日 刈羽村議会全員協議会
3月21日 柏崎市議会全員協議会
3月26日 柏崎・刈羽地域説明会 於：刈羽村
3月27日 柏崎・刈羽地域説明会 於：柏崎市
5月30日 柏崎・刈羽地域説明会 於：柏崎市
6月 6日 柏崎市議会全員協議会
刈羽村議会全員協議会
6月 9日 刈羽村全員協議会
6月13日 柏崎市議会全員協議会
柏崎・刈羽地域説明会 於：柏崎市
6月16日 新潟県議会連合委員会
6月24日 柏崎・刈羽地域説明会 於：柏崎市
6月28日 柏崎・刈羽地域説明会 於：刈羽村
6月30日 刈羽村全員協議会
7月 1日 柏崎・刈羽地域説明会 於：西山町
7月 3日 柏崎市議会全員協議会

ご説明回数

- ・県の技術委員会 4回
- ・市町村議会へのご説明 9回
- ・県議会へのご説明 2回
 [柏崎市 / 4回 刈羽村 / 4回 西山町 / 1回]
- ・地元説明会 124回
 [大型説明会 / 7回 諸団体説明会 / 78回
 小型説明会 / 39回]

議会、地元説明会は平成15年3月11日以降の実施回数
柏崎市・刈羽村への全戸訪問は約31,000世帯へ実施。

平成15年 5月 7日

新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長による三者会談を受け、柏崎刈羽原子力発電所6号機の発電を再開。

平成15年 6月16日

福島第一原子力発電所3号機における保安規定違反事象と再発防止対策に関する報告書を取りまとめ、原子力安全・保安院へ提出。

平成15年 6月20日

原子力発電所において、安全確保の足もとを強固なものとするために9月20日まで、「原子力安全・品質特別強化活動」を実施。

点検停止中の柏崎刈羽原子力発電所7号機の発電を再開。

平成15年 7月13日

点検停止中の福島第一原子力発電所6号機の発電を再開。

平成15年 7月22日

点検停止中の柏崎刈羽原子力発電所4号機の発電を再開。

夏の電力需給状況

今夏の最大電力

首都圏の最大電力は、冷房需要の大きい夏の昼間に記録され、過去、最も大きかった年は、平成13年7月24日に記録した6,430万kWです。

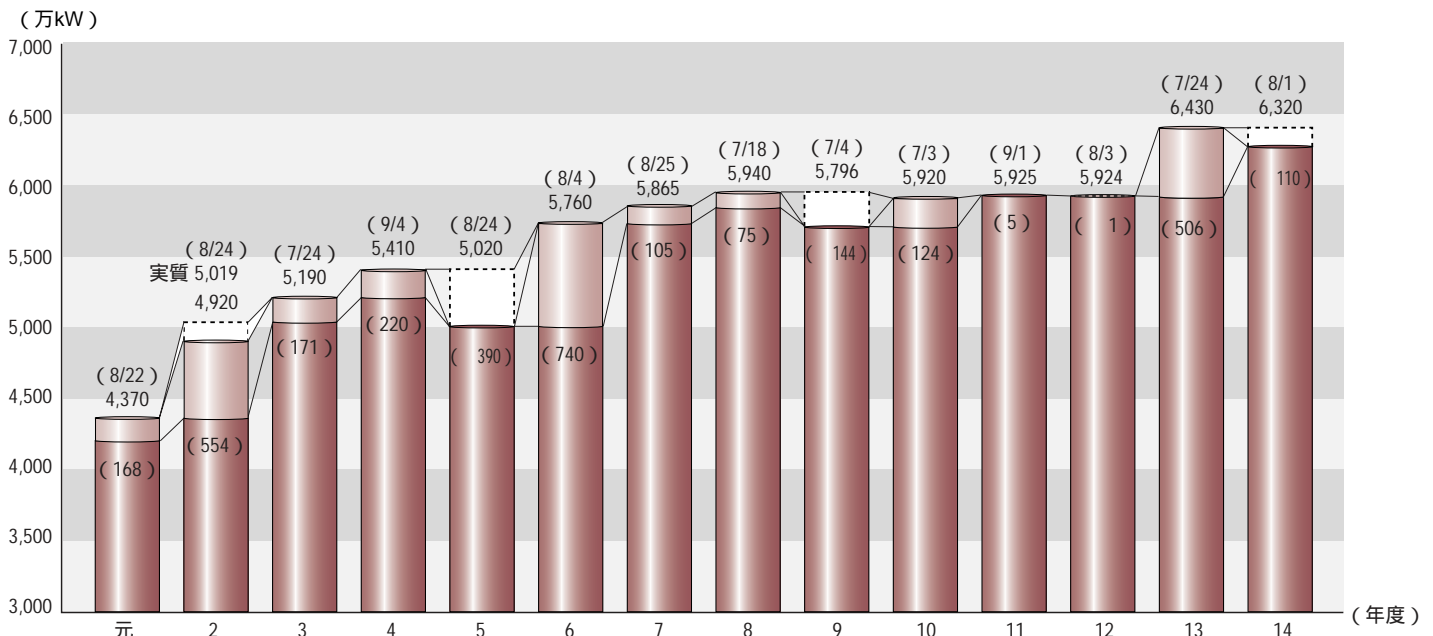
今年の夏については、通常の暑さの場合で6,100万kW、非常に暑くなった場合で6,450万kWの最大電力が発生すると想定しています。

電力需要は増加傾向

最大電力は冷房需要の増加等を背景に増加傾向で推移

過去最大は平成13年7月24日の6,430万kW(平成元年の4,370万kWから約2,000万kW増)

最大電力の推移(発電端1日最大)

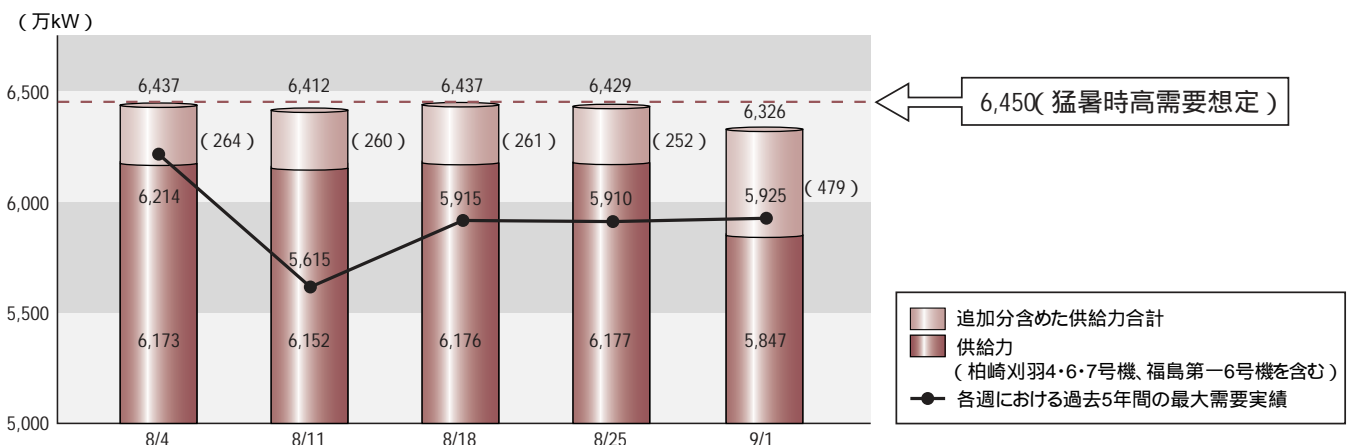


発電端1日最大：発電機から発生する電力で、1年で最も多く使われた電力。

＊1. 対前年増加分。

＊2. 平成2年度は大きな工場のお客さまに需給調整契約にもとづく抑制をお願いしたことから実際の最大電力に需要抑制分を加えた値となる。

各週別の最大電力実績および供給力の見通し〔平成15年8月4日現在〕



供給力対策

今回の事態を受けて緊急的に準備した供給力は、以下の通りです。〔平成15年8月4日現在〕

供給力対策1

長期計画停止中の火力発電所の再稼動
(約220万kW)。(右図参照)

発電所	号機	供給力	運転再開日
横須賀	8号	35万kW	H14/11/27
鹿島共火	2号	35万kW	H14/12/3
横須賀	7号	35万kW	H14/12/27
川崎	5号	17.5万kW	H15/2/4
横須賀	6号	35万kW	H15/2/21
横須賀	5号	35万kW	H15/5/29
横須賀	2号	26.5万kW	H15/6/26

供給力対策2

停止時期の繰り延べ(約10万kW)。
(右図参照)

発電所	号機	供給力	時期延期
君津共火	2号	12.5万kW	6月～10月～

供給力対策3

他電力会社からの応援融通の計画受電
(約165万kW)。(右図および、右ページ日本地図参照)

受電時期	送電会社	受電電力	備考
4月～	北海道	30万kW	
	北陸・関西・九州	35万kW	うち5万kWは関西の水力機の50Hz運転
6月16日～	中部	9万kW	電源開発(株)佐久間水力機の50Hz運転
6月23日～	北海道	30万kW	
	関西	42万kW	うち2万kWは水力機の50Hz運転
	九州	20万kW	

供給力対策4

新設火力の運転開始時期繰り上げや
火力・水力の補修時期の繰り延べなど(約
150万kW)。(右図参照)

新設火力発電所の運転開始時期繰り上げ
(品川1-3軸、富津3-2軸、各38万kW)
自社火力補修時期調整
(8月:70万kW)

上記の結果、これまでに夏季対策として
計約550万kWの供給力確保の見通しがつ
いています。

その他、追加の供給力対策として、新設
火力の試運転電力の活用や、自家発電からの
余剰電力の購入、火力の増出力運転などを
検討しています。(右図参照)

	8月	備考
試運転電力	110万kW	常陸那珂1号(100万kW)、 品川1-3軸・富津3-1軸(各38万kW)。
自家発電余剰の購入	50万kW	JR東日本様等。
火力の 増出力運転	70万kW	需給逼迫時には自社に加え他社に も増出力を依頼。
その他	30万kW	
合計	260万kW	

参考 ▶▶ 電力融通と電力連系線

東日本が50ヘルツ、西日本が60ヘルツと周波数が異なっているため、電力を東と西で融通するには周波数を変換する必要があります。この変換のできる場所は新信濃変電所と佐久間周波数変換所の2か所があります。新信濃変電所には60万kW、佐久間周波数変換所には30万kWの周波数変換設備が設置されています。

電力融通には、供給力コスト低くするための経済融通、故障時など緊急時の応援融通があり、これにより全国的な発電設備の効率的運用、電力の安定供給が図られています。



東西で異なる周波数

明治、大正時代の電気事業黎明期に現在よりも多くの電力会社が全国で営業しており、主に東日本ではヨーロッパ系:50ヘルツ、西日本ではアメリカ系:60ヘルツの発電機を輸入していました。その後、しばしば全国統一の努力が行われましたが、莫大な費用と時間がかかるため実現せず、現在に至っています。

原子力発電所の現況

原子力発電所の安全と安心を確かなものとするために、順次、発電所を停止し、4月15日には点検・補修作業のため全ての原子力発電所を停止いたしました。(8月8日)現在、柏崎刈羽原子力発電所の4・6・7号機、福島第一原子力発電所の6号機の合計4基の運転を再開しております。

また、現在、福島第一原子力発電所の3・5号機、福島第二原子力発電所1・3号機の合計4基が、格納容器漏洩率検査ならびに起動前試験を全て終了しております。

このうち、福島第一原子力発電所の3・5号機、福島第二原子力発電所1号機については、国の安全確認を受け立地町村より起動についてご了解をいただいております。現在、福島県により、国の安全確認の内容ならびに当社の点検補修の状況や再発防止の取り組みについての確認が進められるところです。

[平成15年8月4日現在]

発電所	号機	停止日 定期検査開始日	プラントの現在の状況		原子炉格納容器 漏えい率検査
福島第一	1号	H14.10.26 H14.11.20	定検中	・行政処分により1年間の運転停止命令。 (H14.11.29～H15.11.28)	9月以降*
	2号	- H15. 3.31	定検中	・CRD配管取替工事中。	9月以降
	3号	- H14. 7.18	定検中	・格納容器漏えい率検査終了、起動前試験終了。	H15. 6.12 終了
	4号	H14. 9.16 H14.12. 2	定検中	・シュラウド補修済み。	9月以降
	5号	- H15. 2.11	定検中	・格納容器漏えい率検査終了、起動前試験終了。	H15. 7. 4 終了
	6号	H15. 4.15 -	運転中	・H15. 7.11原子炉起動。 ・H15. 7.13発電開始。	H15. 5.23 終了
福島第二	1号	- H15. 1. 7	定検中	・格納容器漏えい率検査終了、起動前試験終了。	H15. 6.27 終了
	2号	H14. 9. 3 H15. 4.14	定検中	・シュラウドの点検終了(ひびあり)。 ・原子炉再循環系配管点検終了(ひびあり)、補修予定。	9月以降
	3号	H14. 9.16 H14.12.10	定検中	・シュラウド補修済み。 ・原子炉再循環系配管補修済み。 ・格納容器漏えい率検査終了、起動前試験終了。	H15. 7.25 終了
	4号	H14.10.13 H15. 2. 1	定検中	・シュラウド補修工事中。 ・原子炉再循環系配管補修工事中。	9月以降
柏崎刈羽	1号	- H14. 9. 3	定検中	・シュラウド補修予定。 ・原子炉再循環系配管補修工事中。	9月以降
	2号	H14. 9.20 H15. 3.10	定検中	・シュラウド補修工事中。 ・原子炉再循環系配管補修工事中。	9月以降
	3号	- H14. 8.10	定検中	・シュラウド補修工事中。 ・原子炉再循環系配管補修工事中。	9月以降
	4号	- H15. 1. 7	調整 運転中	・H15. 7.22原子炉起動。 ・H15. 7.25発電開始。	H15. 6.24 終了
	5号	- H15. 3. 1	定検中	・シュラウドの点検終了、ひびあり。 ・原子炉再循環系配管補修工事中。	9月以降
	6号	- H15. 1.27	運転中	・H15. 5. 7原子炉起動。 ・H15. 5. 9発電開始。	H15. 4.14 終了
	7号	H15. 3.29 -	運転中	・H15. 6.18原子炉起動。 ・H15. 6.20発電開始。	H15. 6. 4 終了

シラウド、再循環系配管補修終了
漏えい率検査終了
運転中

* H14.10.26より自主的に停止し、H14.12. 5に検査を終了している。

今後の見通し

前述の通り既に4基が運転を再開しています。しかし、依然として原子力13基の停止が続く中で、お盆明け以降猛暑となった場合、最大電力6,450万kWの需要予測に対して供給力が若干不足する見通しです。

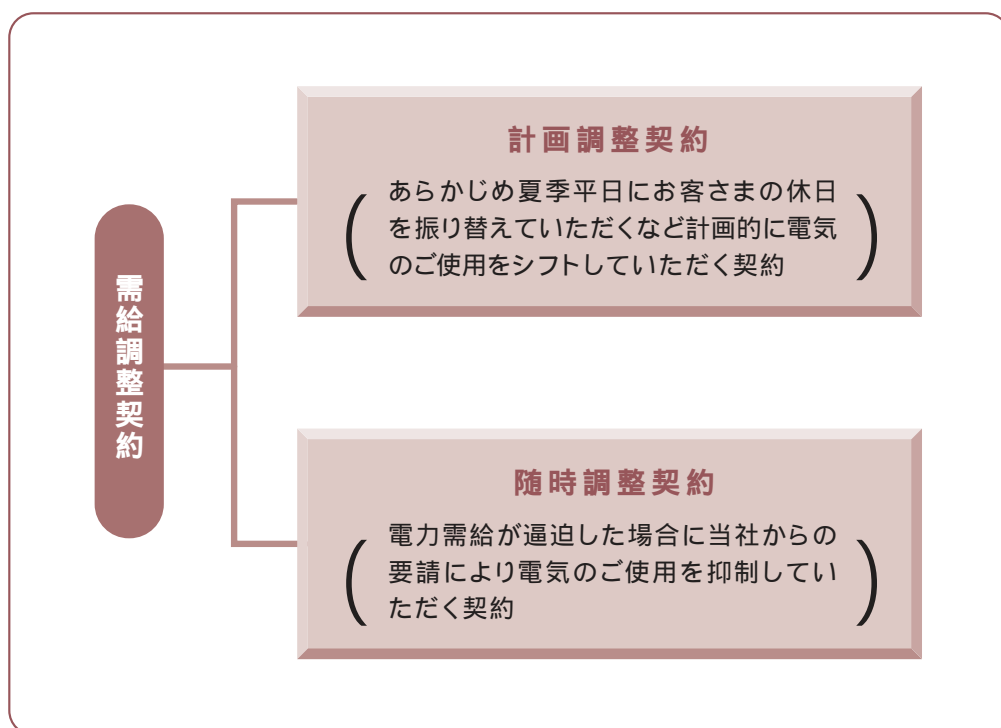
そのような場合には、追加供給力(約260万kW)を最大限に活用するほか、需給調整契約による需要の抑制(約140万kW)等により、需給は何とかバランスする見込みとなりました。

高需要時(厳しい気象条件の場合) (万kW)

	8月
需 要	6,450
供 給 力	6,170
予 備 力	280

8/4からの4週平均。

しかしながら、現状は長期間停止させていた老朽火力や試運転中の発電所の電気を最大限に活用したり、火力発電所の点検時期を先送りさせていただくなどして何とかしのいでいる状況です。今後、予想を超える高気温の発生や不測の設備トラブル等を考慮すると、予備的な供給力の確保(300万kW程度)が必要であり、当社といたしましては、地元の皆さまのご理解を得てさらに3～4基程度の運転再開を目指してまいります。



■ 節電のお願い

今後も、さまざまなリスクを考慮し、追加供給力対策の確実性を高め、安定供給に全力を尽くしてまいります。気温上昇による需要急増や、発電施設のトラブルによる停止などにより、供給力が不足する可能性があります。

夏に高需要が発生するのは、平日の昼間の午後1時から4時の時間帯です。そのうち、6,000万kW以上となるのは一夏に8日程度ですが、7月上旬から9月上旬までのどの日に発生するかを予測することはできません。

皆さまには、是非とも引き続き節電にご協力をお願いしたいと思います。

「でんき予報」の開始について

～ テレビ・ラジオ・インターネット等で 日々の電力需給状況予想をお知らせ ～



電力の需給状況が厳しくなる夏場を迎え、6月23日から毎日「～9/5(予定)(土日・祝日を除く)」、お客さまに対して、テレビ、ラジオ、インターネット、テレホンサービスを活用して、当日の電力需給予想を広くお知らせするとともに、当日の需給予想に応じた節電のご協力をお願いする「でんき予報」を開始しました。

具体的には、当日の「予想最大電力需要」「発生予想時刻」、それに対する「供給力」や「前日の最大電力需要実績」などを、テレビ民放東京キー5局(日本テレビ・TBS・フジテレビ・テレビ朝日・テレビ東京)をはじめ、山梨エリア(山梨放送・テレビ山梨)や沼津エリア(静岡放送・テレビ静岡・静岡朝日テレビ・静岡第一テレビ)の午前11時台の番組内で放送するほか、ラジオ民放6局(TBSラジオ・文化放送・ニッポン放送・ラジオ日本・TOKYO FM・J-WAVE)や山梨エリア(山梨放送・FM富士)、沼津エリア(静岡放送・静岡FM)の午前中10時～11時台の番組内でも同様のお知らせをしています。

さらに、インターネットの当社ホームページ内(<http://www.tepco.co.jp>)で、夕方の気象情報等に基づく翌日の需給予想を17時30分頃に、また当日朝の気象情報等に基づく電力需給予想を当日9時頃にお知らせするとともに、毎日、1時間ごとの最大電力需要の実績値(速報値)をグラフで掲載しています。

また、テレホンサービス(通話料無料 ☎ 0120-99-3000)でも、当日9時頃より電力需給予想などをお知らせしています。

<参考>

テレビ放送イメージ



具体的な節電のポイント

空 調

冷房の設定温度を1℃高めに設定する事により(推奨温度: 28℃)

約10%の節電になります。

ブラインドやカーテンを閉めたり、遮光フィルムを貼り、日射負荷を減らす事により

ブラインド等をしない時とくらべ約5%の節電になります。

空調機・ファンコイル内のフィルター類をこまめに清掃する事により

約5%の節電になります。

照 明

調光器付きランプは明るさを控えめにする事により

最大で約40%の節電になります。

道路や窓際の照明の間引きを実施する事により

間引き消灯を10%した場合、約10%の節電になります。

毎日長時間使う照明は、白熱電球より電球形蛍光ランプへ取替えを実施する事により

13W程度の電球形蛍光ランプなら60Wの白熱電球に相当し、約75%の節電になります。

そ の 他

待機電力の40%を占めるAV機器などを主電源で消す事により

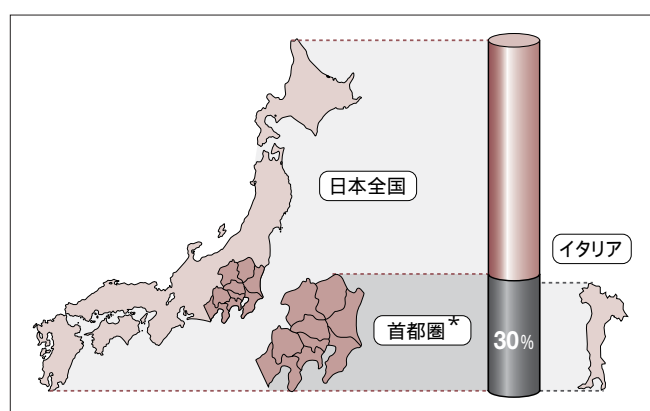
約75%の節電になります。

なお、「当面の電力需給見通し」、「節電の具体的なお願い」等については、東京電力のホームページでもご覧いただけます。

▶ <http://www.tepco.co.jp/>

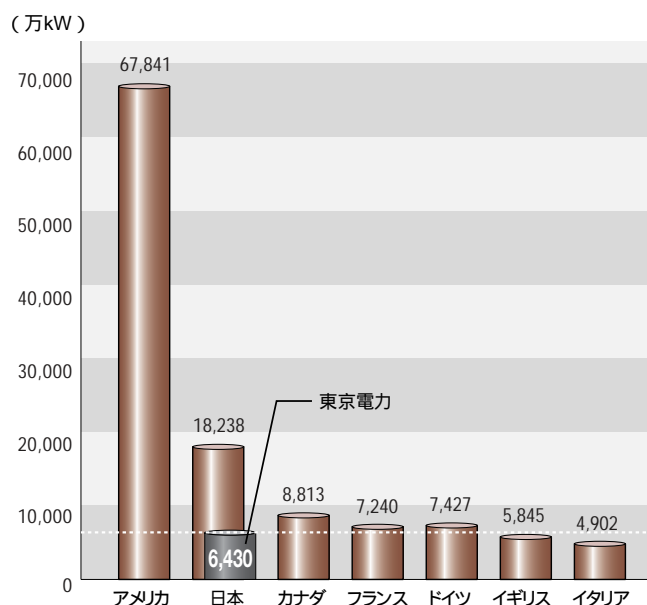
《 莫大な電力需要 ～最大電力ではイギリス1国分以上 《

当社が電気をお届けしている首都圏を中心とする地域は、人口では日本全体の約3割、GDPでは約4割を占めています。電気の消費量においても日本全体の約3割を占めており、これはイタリア1国分を上回る大きさです。また1年で最も多く電気が使われる最大電力では、イギリス1国分を上回っています。



* 東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨、静岡の一部

参考 ▶▶ 主要国の最大電力



* ドイツは'99年実績値。日本は10電力、発電端1日最大('01.7.24)、東京電力は発電端1日最大('01.7.24)。その他は'00年実績値。

(出所:海外電力調査会編「海外電気事業統計」/2002年版)

《 季節によって大きく変動 ～夏は春・秋の50%増 《

電気の使われ方が季節によって大きく変動することも、首都圏の電力消費の特徴です。夏が最も多く、次いで冬、冷暖房需要のない春と秋は少なくなっています。最大電力で見ると、夏6、冬5、春・秋4、の割合で、真夏では、春・秋に比べると約50%も電気の消費が増えます。数値で言えば2,000～3,000万kWの増加で、これは九州地方全体(約1,700万kW)を超える量が、季節によって変動することになります。

《 時間によって大きく変動 ～発電機30基分が急増 《

1日の中で時間によって変動することも大きな特徴です。夏、電力消費が最も少ない時間帯は明け方で、社会が活動し始めるとともに急激に増加、昼の午後1時から4時の時間帯に最も多くなります。その差は約3,000万kW、大きな発電機30基分が一気に増えることになります。

《 気温に敏感に反応 ～1度上昇で沖縄県分増加 《

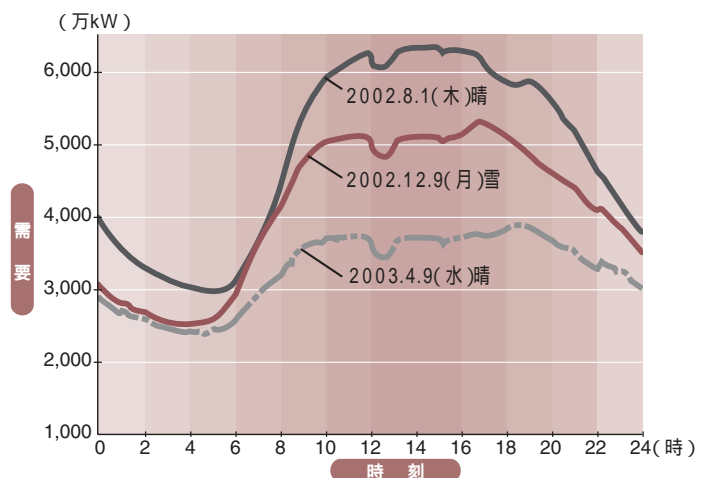
電力消費は気温と湿度に敏感に反応します。これは、最大電力発生時の需要の約3分の1が冷暖房需要であることがその理由です。特に、夏に気温が30度を超えている時にさらに1度気温が上昇すると、約170万kW程度増加すると想定され、これは沖縄1県分(約150万kW)を上回る大きさです。

一日の電気の使われ方 (最高気温は東京地方)

発生日	最大電力 (万kW)	発生 時間	最高気温 (℃)	最小電力 (万kW)	発生 時間
2002. 8.1 ¹	6,320	15	35.6	2,991	5
2002.12.9 ¹	5,220	17	3.0	2,531	4
2003. 4.9 ²	3,858	19	20.7	2,413	5

1.最近の夏・冬の最大電力発生日。

2.冷暖房機器を利用しない春先の一日。



電力需要が高いのはごく短期間

当社の過去最大電力は、平成13年7月24日に発生した6,430万kWですが、この年6,000万kWを超えた時間はわずか25時間、日数では6日間にしか過ぎませんでした。

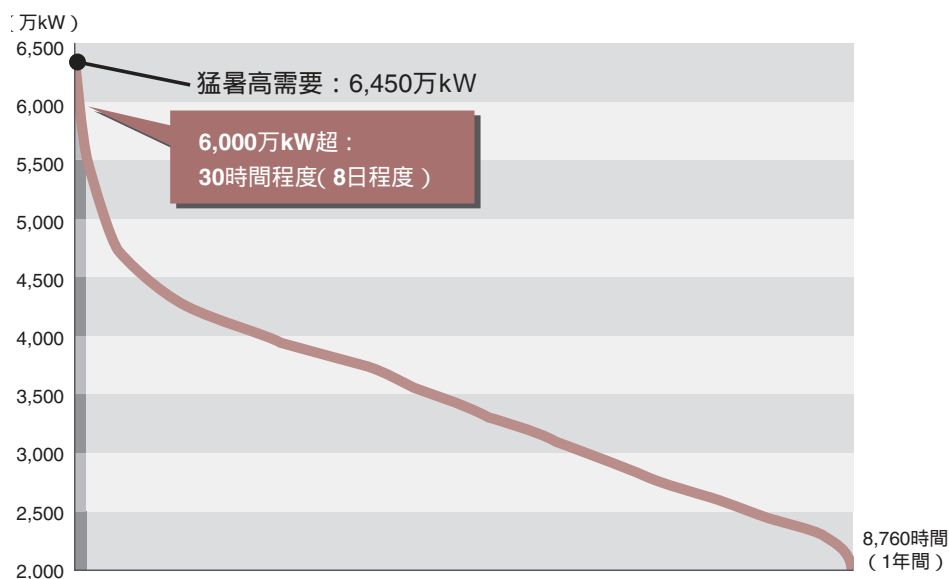
下表は、1年間(8,760時間)の電力需要を大きい順に1時間ごとに並べ、8,760本の棒グラフをプロットしたものです(13年度実績値による15年度の想定値のグラフ)。

1年間のうち6,000万kWを超える需要が発生する時間は8日程度と想定しています。

電気は貯めることができないため、最も電気が使われるときにあわせて、発電所や送電線などの設備形成をする必要があります。

しかし、電力需要は前述の通り季節や時間によって大きく変動するため、いつもすべての設備を稼働させているのではなく、電力需要の変動の幅が大きいほど設備稼働の効率が悪くなります。そのため、最大電力をいかに大きくしないかが非常に重要な問題となってきます。

デューレーションカーブ(H13年度実績値によるH15年度想定値)



再発防止のための4つの約束

当社は、昨年9月17日に当社原子力発電所における点検・補修作業に係る不祥事の再発防止対策として「情報公開と透明性確保」、「業務の的確な遂行に向けた環境整備」、「原子力部門の社内監査の強化と企業風土の改革」および「企業倫理の徹底」の『4つの約束』をお示しし、この約束を実現することを社会的使命と位置づけて、全社をあげて取り組んでおります。

『4つの約束』にお示しした諸施策のすべては、原子力発電を任されている電気事業者として欠くべからざるものであり、事業の根幹をなす「安全の確保」につながっております。

安全を最優先に事業を進めることなくして、社会の信頼回復もあり得ないこと、「安全の確保」と「信頼の構築」が揃って、初めて「安心」が生まれることを、経営層から現場第一線に至るまでの全社員で再確認してまいります。

今後も引き続き、再発防止対策を徹底し、立地地域の皆さまをはじめ、社会の皆さまからの信頼回復に全力で取り組んでまいります。

第1の約束：情報公開と透明性確保

～情報公開を徹底し、社外の視点を取り入れて透明性の高い発電所運営を行います～

原子力発電所の業務運営に関する情報を公開し、発電所運営が適切に行われていることをご確認いただけるようにいたします(立地地域による発電所地域情報会議の設置と当社の情報公開の考え方を決定)

発電所運営に関する地域の声をうかがいます

社員同伴の上、発電所内の現場をはじめ発電所構内の可能な限りのアクセスを保証します

安全運転を確認するために必要な情報を提供します(核物質防護・不拡散に関わる情報、個人情報、意思決定プロセス等を除く)

イ) 福島第一原子力発電所、「福島第二原子力発電所」

立地4町(双葉、大熊、富岡、楢葉)を中心に検討し、所在町協議会で設置を決定(15.1.14)

・名称:「福島県原子力発電所所在町情報会議」

第1回会議:2月6日開催。第2回会議:3月25日開催。

第3回会議(5月27日)では、当社から発電所による理解活動の状況、情報公開の取り組みについて説明

ロ) 柏崎刈羽原子力発電所

柏崎市を中心に、県、刈羽村、西山町の行政及び立地地域の代表メンバーで準備会にて議論

・名称:「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」

・第1回会議:5月12日開催 県から不正問題の経緯、当社から発電所の取り組み(総点検再発防止対策、補修の基本的な考え方等)を説明。

・「地域の会」発電所ご視察:6月1日、2日

・第2回会議:6月9日開催、第3回会議:7月2日開催、

第4回会議:7月17日開催

第三者による原子力安全・品質監査の仕組みを整備いたしました

原子力安全・品質保証会議設置(敬称略)

・議長:成合英樹(筑波大学名誉教授)

・社外委員:犬伏由利子(消費科学連合会副会長)高倉吉久(東北放射線科学センター理事)竹野下喜彦(弁護士)中條武志(中大理工学部教授)広瀬弘忠(東京女子大文学部教授)

第1回会議:12月19日開催。自主点検作業の総点検に関する報告、監査の進め方と14年度下期監査テーマの選定などを審議

第2回会議:2月13日柏崎刈羽原子力発電所にて開催。現地視察を踏まえた原子力安全・品質保証に関する意見交換実施

第3回会議:3月31日開催(監査結果報告)

第4回会議:6月3日開催。14年度下期テーマ監査のフォローアップ報告、発電所点検・補修状況について、15年度監査計画について、委員との「ワーキンググループ」設置についてなどを審議

第三者機関によるマニュアル・業務プロセスのチェック

業務遂行上のルールの明確化及び業務プロセスの改善を図るため、マニュアル類の整備・見直し

マニュアル類の整備・見直しにあたっては第三者機関の評価結果を活用

・第三者機関としてロイドレジスター・クオリティ・アシュアランス・リミテッド社と委託契約を締結(11月15日) JEAG4101、ISO9001に基づき、不適合管理、文書・記録管理、調達管理、設計管理、検査・試験管理等を対象に8回のレビューを実施。その結果を第3回原子力安全・品質保証会議に結果報告

第2の約束：業務の的確な遂行に向けた環境整備

～社員・組織の的確な業務遂行を支援する機能を強化します～

社長指示により、全店所において不具合事例を抽出しています。原子力発電所では「不適合管理委員会」を設置して重点的に審議しています法令上、倫理上の悩みを気軽に相談できる窓口を設置いたしました「企業倫理相談窓口」の開設(10月31日):電子メール、イントラネット、郵便、電話で受付

・寄せられた相談は企業倫理委員会に報告し、社会およびお客

さまの信頼を損なうと判断した事案については、事案の内容・対応経過・再発防止対策を公表。現在のところ、企業倫理に重大な影響を及ぼす相談は寄せられていない

ルール遵守、業務品質管理など、安全確保の足もとを強固にするために「原子力安全・品質特別強化活動」を実施しています(15.6.20～9.20) 全社・全部門にわたる規程・マニュアルの総点検を実施しています

第3の約束：原子力部門の社内監査の強化と企業風土の改革

～原子力部門の閉鎖性を打破し、風通しのよい企業風土を構築します～

原子力部門における「品質保証」体制を整備いたしました

本店に原子力品質監査部設置：10月15日

原子力発電所に品質監査部(原子力品質監査部の駐在機関)設置：
11月1日

「原子力品質保証基本計画書」制定(1月27日)：原子力部門の業務遂行にあたっては、JEAG4101、ISO9001を参照して的確な品質保証活動を行うことを明記

社長は原子力安全・品質保証会議に出席し、社外委員のご指導を仰ぐ
原子力発電の品質監査組織に社外人材を登用(ホームページで一般公募。6名採用)

各階層・部門間の問題意識を共有するための社内コミュニケーション活性化を進めています

・会長、社長をはじめとして、各経営層が全事業所を訪問し、社員各層と懇談を実施

原子力部門と他部門との間の人材交流を随時実施しております
H14/9～H15/3末

原子力発電所においても風土改革への取り組みを進めております
・意識改革キャンペーンの実施、トラブル発生時の社員・協力会社との迅速な情報共有

第4の約束：企業倫理遵守の徹底

企業倫理遵守の徹底に向けた体制を整備いたしました

・企業倫理担当役員設置：9月25日(会長)、企業倫理事務局設置(10月15日)

・本店各部、各事業所に企業倫理責任者・企業倫理担当設置(11月27日)

「企業倫理委員会」を設置いたしました

社外委員：野崎幸雄(弁護士)、三宅なほみ(中京大学情報科
(敬称略) 学部認知科学科教授)、梅津光弘(日本経営倫理学会
理事)、鈴木登(東電労組中央執行委員長)

委員会開催：第1回委員会(10月31日開催)、第2回委員会
(11月27日開催)、第3回委員会(12月24日開催)、

第4回委員会(2月26日開催)、第5回委員会
(4月21日開催)、第6回委員会(6月11日開催)

「企業倫理遵守に関する行動基準」を作成いたしました

「東京電力企業行動憲章」を改定。あわせて「企業倫理遵守に関する行動基準」を全社的な職場討論や意見交換会を通じて出された1万件を超える意見を踏まえて制定

全社員への小冊子配布、イントラネット上のポータルサイト設置などにより、浸透を徹底

企業倫理遵守のための教育・研修を随時実施しています

これら4つの約束の具体的な推進に加え、その後の点検作業ミスなどを踏まえ、あらためて安全最優先の考え方を徹底し、再発防止に向けた取り組みを当社並びに現場第一線の隅々まで徹底させるために、現場を重視した以下の取り組みを実施しております。

安全管理の徹底

現場第一線への安全管理の徹底をはかるため、6月20日から9月20日までの3ヶ月間の「原子力安全・品質特別強化活動」を実施するとともに、経営層自らによる現場指導の強化を行っています。また、安全管理システムの再構築のため、当社組織の見直しについても検討しております。

協力企業とのコミュニケーションの強化

協力企業の皆さんにも参加頂き、地域の視点に立った発電所運営管理システムを構築していきます。また、現場第一線の声を吸い上げるための双方向コミュニケーションの改善、当社と協力企業間での情報共有の促進を図るための検討や意見交換などを実施しております。

情報公開の徹底

「報告する文化」、「先ず第一報」を周知・徹底するとともに、節目節目での「途中経過報告」も含め、発電所内の様々な出来事をホームページも活用しながらタイムリーにわかりやすく公開しております。

当社はインターネットを通じ情報提供をしています。

当社のホームページのアドレスは

<http://www.tepco.co.jp> です。

皆さまからのアクセスをお待ちしております。

TEPCO レポート

平成15年8月 特別号

編集・発行箇所

東京電力株式会社

広報部 広報計画グループ

〒100-8560

東京都千代田区内幸町1丁目1番3号

電話：(03)4216-1111(代表)

当レポートは再生紙を利用して作成しています。